

「おもいでぐさ」から四大精神を考える教材の開発と評価

—だい先生の真心・努力・奉仕・感謝—

Development and evaluation of teaching materials that consider the four major spirits from "Omoidegusa"

—How did Mrs. Dai think about sincerity, effort, service, and gratitude?—

木村 典子 Noriko Kimura
(愛知学泉短期大学生生活デザイン総合学科)

菅瀬 君子 Kimiko Sugase
(愛知学泉短期大学生生活デザイン総合学科)

秦 真人 Mahito Hata
(愛知学泉短期大学生生活デザイン総合学科)

杉浦 菜穂子 Nahoko Sugiura
(愛知学泉短期大学生生活デザイン総合学科)

大森 有希乃 Ukino Ohmori
(愛知学泉短期大学生生活デザイン総合学科)

村上 拓也 Takuya Murakami
(愛知学泉短期大学生生活デザイン総合学科)

小山田 尚弘 Naohiro Oyamada
(愛知学泉短期大学生生活デザイン総合学科)

長谷川 えり子 Eriko Hasegawa
(愛知学泉短期大学生生活デザイン総合学科)

千賀 敬之 Takayuki Senga
(愛知学泉短期大学生生活デザイン総合学科)

江良 友子 Tomoko Era
(愛知学泉短期大学生生活デザイン総合学科)

抄 録

学生達が将来においても、幸せに生きていくために四大精神は必要な概念であると考え、この四大精神をより、学生達に根付かせるために、「寺部だい自伝おもいでぐさ」を活用した教材を開発した。教材開発にあたり、「おもいでぐさ」についての学生の感想を分析、教員への「おもいでぐさ」の教材に関するアンケート、「おもいでぐさ」のテキスト分析を行い、教材を開発する手順を進めた。開発した教材を無限の可能性開発講座Ⅱで実施し、学生の振り返りシートから評価した。学生達が「おもいでぐさ」を読んで、思うことを言語化し、発言していくことで、四大精神の理解に繋がると思われた。学生間での考えを議論、共有することが、四大精神の理解への深化につながる事が伺えた。

キーワード

教材開発(development and evaluation of teaching)、おもいでぐさ(Omoidegusa)、四大精神(the four major spirits)、真心(sincerity)、努力(effort)、奉仕(service)、感謝(gratitude)

目 次

- 1 はじめに
- 2 研究目的
- 3 研究方法
- 4 結果と考察
- 5 おわりに

1 はじめに

生活デザイン総合学科では、意図した四大精神の育成に、1年次の前期科目「学びとライフプランニング」にて、「おもいでぐさ」の感想の提出、後期にテーマ「創立者の思いを知る」で、寺部暁理事長先生、菅瀬君子先生に講話をしていただき、2年次では総合ゼミナールの活動を通して、四大精神を振り返ることをしてきた。学生達が将来においても、幸せに生きていくために四大精神は必要な概念であると考ええる。この四大精神をより学生達に根付かせるために、「寺部だい自伝おもいでぐさ」を活用した教材開発の必要性を感じた。

そこで、教材の開発に先駆けて、「おもいでぐさ」のテキストマイニング分析をして、読み解くことをした。テキストの意味を考えることが、四大精神を考える上で不可欠と考えたからである。結果、「おもいでぐさ」の同じ文章で、「真心」や「努力」に同時に意味する文があることや、感謝報恩「真心」を理解する上で、だい先生の夢に向かっての決意、教育への取り組み姿勢から考えていく糸口があること、「努力」は、だい先生が夢に向かって努力すること、失敗しても、努力し続けるといった行動から考えていくこと、「奉仕」は身につけた知識、自身のもつ能力を社会へ還元していくこと、お世話になった人への恩返し、働くことから、ひも解くとよいこと、「感謝」は文字が読めた、標識があった、母子の命が救われたこと、不遇な環境下におかれていても、勉強ができること、東京での苦学を支えてもらった人がいること、人との出会いが次の出会いに繋がっていった場面を取り上げることがよいことが分かった。四大精神の要素を含む言葉の意味の理解、授業展開として、テキストマイニング分析の結果を一部学生に示しつつ、学生が理解しにくい「真心」「奉仕」、四大精神のすべてが網羅されると思われる「感謝報恩」を取り上げるとよいと考えた。

学生達が「おもいでぐさ」を読んで、思うことを言語化し、発言していくことからはじめ、四大精神の理解に繋げていくとよいと思われた。学生間での考えを議論、共有することが、四大精神の理解への深化につながると考える。

今回、「おもいでぐさ」から四大精神を考える教材開発に、生活デザイン総合学科の教員全員で取り組み、1年生の後期に、科目「無限の可能性開発講座Ⅱ」にて、授業展開し、評価した。その過程について報告する。

2 研究目的

「おもいでぐさ」から四大精神を考える教材の開発し、評価する。

3 研究方法

3.1 研究の手順

教材開発にあたり、1年前期に提出した「おもいでぐさ」についての学生の感想を分析、教員への「おもいでぐさ」の教材に関するアンケート、「おもいでぐさ」のテキスト分析を行い、教材を開発し、それを実施し、評価する手順で進めた。

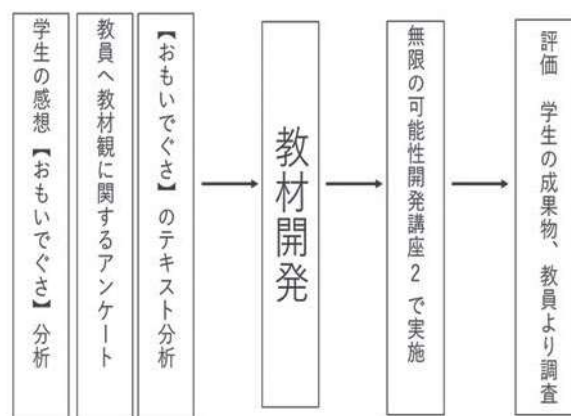


図1 研究計画

3.2 1年前期に提出した「おもいでぐさ」の感想の分析

テキストマイニング分析にはソフト KH Coder 3b03g.exe を使用した。KH Coder を用いて、学生がと捉えている四大精神の使われ方を分析する。「真心」「努力」「奉仕」「感謝」の語の確認、語と語の結びつき、テキストの部分ごとの特徴、内容が似た文書の群を探った。

3.3 教員への「おもいでぐさ」の教材に関するアンケート

「おもいでぐさ」の感想、「おもいでぐさ」と「四大精神」で強調する内容・教育方法、四大精神の「真心」「努力」「奉仕」「感謝」を教育するために、の、「おもいでぐさ」の活用方法について自由記述とした。

3.4 「おもいでぐさ」のテキスト分析

主体的かつ明示的にデータの中から、四大精神である「真心」「努力」「奉仕」「感謝」を取り出し、分析を深める。四大精神である「真心」「努力」「奉

仕」「感謝」のコーディングルールを作成し、多く出現していたコードの確認、コード間の結びつき、テキストごとの特徴を探る。KH Coder のコマンドの「単純集計」「類似度行列」「共起ネットワーク」を使用する。これについては愛知学泉大核紀要第4号1号を参照されたい。

3.5 教材開発

1年前期に提出した「おもいでぐさ」の学生の感想を分析、教員への「おもいでぐさ」の教材に関するアンケート、「おもいでぐさ」のテキスト分析をもとに、総合的に考察し、教材を開発する。

3.6 実施と評価

開発した教材を科目「無限の可能性開発講座Ⅱ」の授業で展開し、振り返りシート、教員からのコメント、成果物から評価した。

4 結果と考察

4.1 1年5月に書いた「おもいでぐさ」の感想より真心・努力・奉仕・感謝の使われ方分析

130名分の感想を分析ソフト KH Coder にて、分析した。総抽出語数は 45990 語、異なり語数 2397 語であった。分析に総抽出語数 17121 語、異なり語数 1980 語、文 1333 であった。

四大精神の感想での出現は真心 12、努力 123、奉仕 10、感謝 85 となっていた。

表1 四大精神の出現数

項目	数
真心	12
努力	123
奉仕	10
感謝	85

「真心」の使われ方は以下に示す四大精神と並列での使われ方が 12 文中、11 文であった。

<2年間の短大生活を建学の精神「真心、努力、奉仕、感謝」の4大精神をしっかりと感じながら、考えながら生活していきたいです>

<「真心、努力、奉仕、感謝」の4大精神をもって一生懸命努力し、夢に向かっていきたいです>

「努力」の出現する文は自分の努力とだい先生のしてきた努力について書いてあった。

<大人になったときにあのときに努力しておいて良かったとおもいかえせるように、大学生活が無駄に

ならないようにがんばっていこうと思う>

<一生懸命努力するだい先生は本当にかっこいいと思いました>

<努力する、だい先生の生きざまそのものなのだと思います>

<何度も中退、入学を繰り返しても諦めずに、努力して卒業した所に感動しました>

「奉仕」の出現する文は「真心」同様、四大精神と並列での使われ方が 10 文、全部であった。

「感謝」の出現する文は自分の周囲、今あることへの感謝とだい先生の生き方から理解した感謝であった。

<自分の好きなことを学ぶために学校に通うこともできることに感謝しなければいけない>

<最近ではコロナの影響もあって、当たり前だと思っていたことが当たり前ではないことに気づかされることが多いので、一つ一つのことに感謝していきたい>

<だい先生は育ちがいいと思いました。いつでも感謝をしている気持ちが読んでいても伝わりました>

<生まれてきたことや、こうやって幸せに生きれること、今後の人生でたくさん感謝をして生活できるようにしたい>

4.2 教員へのアンケート、教材観の確認

1) 「おもいでぐさ」の感想、一部抜粋

・不遇な境遇を不屈の「努力」によって切り抜け、その結果と、そこまで関わった人々への「感謝」の念を強く感じる内容である。

・実に多くの出会いの「運」を持ち合わせている。そして、この運を活かしてこれたことこそが「真心」を持って接してきた、だい先生の立ち振る舞いがあったのではないかと感じる。

・幾多の困難の中でも解決策を考え、粘り強く信念を貫いてきた行動には、頭が下がることばかり。

・最も忘れられないエピソードは、だい先生が七歳の時の「善光寺詣り」での出来事・・・全国的にも就学率の低いなか、女子でも、経済的に厳しくても、教育獲得に向けて就学させたいという、だい先生のお母様のお気持ちに目頭が熱くなった。

・だい先生が過ごした時代背景が現代とは大きく異なるので、単純比較はできないが、その努力・忍耐は大変尊いものである。

・だい先生のような苦難の人生を、普通の人が送る

うとしても途中で挫折し諦めてしまうと思うが、諦めないで頑張る魂の根底にあるものは育ててくれた母親を喜ばせたいという熱い思いだと思う。

2) 「おもいでぐさ」と「四大精神」の関係で強調する内容・教育方法

・「四大精神」の4つの要素を私はこれまで並列で捉えていたが、今回「おもいでぐさ」を読み返し、教材化を図るということから考えると、「真心」という真実の心（偽りのない本当の思い）があり、それを実現していく推進力として「努力」と「奉仕」の精神と組み合わせた教育。

・学生の多くは四大精神の中でも創立者の「努力」と「感謝」を読み取って、自らを高めているが、「真心」と「奉仕」をどのように関係づけて、読み取らせるかが課題である。

・自分が生を受けてからこれまでの人生を振り返る。学生たちの中には、大なり小なり不運や躓きがあると考えられる。

・自分の身に困難が降りかかってきた時、これまでどうやって切り抜けてきたか、振り返りを行う。

・切り抜けられなかったことについては、だい先生ならばどうしたかを考える。

・世の中には様々なことを考え、実践した人がいることを知る。

・学生という立場で「人の役に立つ」ためにどのようなことができるかを考え、実践する。

・序章にある「艱難汝を玉にす」との言葉通り、困難や苦勞を乗り越えた先に人間的成長があるということを「おもいでぐさ」を通して学べるように、「現代社会で困難や苦勞を乗り越えて成長することを各学生がブレストやディスカッションをする。

・「おもいでぐさ」で、今までの自身を振り返り、今後の将来について考えさせ、人生設計を書かせて、今後の目標設定をする。

・「おもいでぐさ」を読みながら「四大精神」について説明したり、テーマを与え考えさせたり、グループワークさせて発表する。

・四大精神の真心、奉仕、感謝、努力を実践している活動「学泉木曜サロン」の活動の様子をパワーポイントで紹介して感想レポートを書かせる。それ以外にも実践活動できるものはないか考えさせてグループ発表させるなど。

3) 学生が理解しにくいと思われる四大精神「真心」で強調する内容・教育方法

・真実の心（偽りのない本当の思い）の実現のために、自らが「努力」した（している・しようとしている）ことを探してみる。

・真心については、おもいやりという言葉に結びつけることが多いですが、文字通り「真実の心」と考えたほうが良いのではないのでしょうか。だいたい先生の真実の心（偽りのない本当の思い）が語られているところを探してみようという方法はどうか。

・「真心」は「おもいやり」という意味にとらえられることが多いが、広辞苑によれば、真心の意味は「誠の心。いつわりのない真実の心」となっている。つまり、嘘をつかない、誠実に生きる、ということだ。この意味の方が「おもいでぐさ」には合っているのではないだろうか。

自分が考える「真心」とはどのようなものかを考え、「おもいでぐさ」の中からこの「真心」を感じさせる場面を抜き出す。

・本文に、「私は将来のためにも、この安城に、女子に必要な家事、裁縫を主体として、一般教養学科の一部を加えた女学校が欲しい、とつねづね考えておりました」とある。だい先生ご自身が学ぶことに大変苦勞されたので、だれでも平等に学ぶ機会を作ってくださいましたこと。相手の立場になって物事を考える事の大切さを伝えたい。

・自分自身のためでなく、相手のために真心をもって、行っていること。また、行いたいことを考える機会を与えたい。

・真心とは、何事もただ行うのではなく、心を込めることである。心あれば形あり。周りの方々に真心を持って接する、何事も真心を持って取り組むことを伝えたい。課題レポートでも真心を込めて取り組むよう指導する。丁寧な字で書く、最後の行まで書く、見直しを行うなど。

・寺部だい先生は、教育者として「真心」を持って学生指導し、多くの社会人や教育者を世に送り出されている。学生達に「真心」を持って行動してきたことを発表させたり、将来どんなことに「真心」を持って人に接し行動したいかを考えさせたり、レポートに書かせたりしてはどうか。

・「おもいでぐさ」の朗読劇などを聞かせて感想を書かせてもよいと思います。

・「おもいでぐさ」のなかでどの箇所や内容が「真心」に該当するのかを学生に挙げてもらい、さらに、その内容を現代の生活の中で実践するにはどんなことに気をつけていけば良いかについてもディスカッション

ョンを行い、「真心」についての理解を深める。

4) 学生が理解しにくいと思われる四大精神「奉仕」で強調する内容・教育方法

・「おもいでぐさ」の中では「奉仕」という単語は「勤労奉仕」「農事奉仕」「奉仕の精神」くらいしか出てこず、いずれも、だい先生のことでは無かった。そこで、だい先生に限らず「奉仕」の精神を感じるエピソードの部分抜き出して考察し、ディスカッションする。

・女子教育を進めていく過程全般の社会貢献という意味での「奉仕」の精神を考えさせる。

・だい先生が実践した「奉仕」を「おもいでぐさ」の中から取り上げ、それらを理解するとともに、自分たちができる奉仕・実践活動を考え、実践する。

・男尊女卑の時代に女性の地位向上を目指した教育を実践するために人生をかけて尽力したが「おもいでぐさ」より読みとれる「奉仕」である。人が喜んでもらえるにはどうしたらいいのかを考えて実行する。

・だい先生は人材育成により社会に奉仕された。「おもいでぐさ」で伝えることができる「奉仕」は、一生懸命に努力し、その成果を自分の周囲の人々や社会に還元することであり、学生自身も漠然と、卒業後は就職して社会貢献をしたいと考えていると思う。「社会貢献」とは何か。自分に何ができて、その中で何がしたいのかを自分自身と向き合い、自分の将来を考える機会にしたい。

・だい先生は、生涯を教育に捧げてこられました。人や社会のために尽くすことの尊さを、「おもいでぐさ」を通じて学び、地域貢献活動に繋がりたい。何か活動が出来たらよいと思う。

・だい先生は、多くの学生達を社会人や職業人として一生懸命に教育し育てられている。だい先生の各場面での奉仕精神を解説して学生に考えさせる。

・「奉仕活動」をテーマに学生に考えさせて活動させる。

4.3 教材開発

学生のレディネス状況、個々教員の教材観、「おもいでぐさ」のテキスト分析の結果を総合して、「おもいでぐさ」から四大精神を考える教材を開発した。今まで行ってきた四大精神の育成に、1年前期「おもいでぐさ」の感想の提出、後期「創立者の思いを知る」の寺部暁理事長先生の講話に加えて、1年後期に無限の可能性開発講座Ⅱにて、テーマ「おも

いでぐさ」から四大精神を考える授業を展開し、2年の総合ゼミナールで四大精神を深める活動に繋げることにした。

キーポイントは「おもいでぐさ」を丁寧に読むことを通して、「だい先生の生き方」「だい先生の思い」「だい先生と四大精神」「社会背景」「考える」「共に学ぶ」「学生自身の行動に結び付ける」である。

授業展開の工夫として、「おもいでぐさ」の理解が深まるよう「善光寺詣り」「夜学の七年」の章の動画作成・視聴、だい先生の人生曲線とその時の心情、だい先生の行動と四大精神について考えられるようグループワークなどを取り入れることにした。図2、3が授業計画、授業資料である。

無限の可能性開発講座Ⅱ

テーマ：「おもいでぐさ」より四大精神について考える

1. 本時の授業の説明 5分

「おもいでぐさ」より四大精神について考える

2. 「おもいでぐさ」一節を作成したVTRの視聴 10分

「善光寺詣り」<https://youtu.be/0u6d68pt98g>

「夜学の七年」<https://youtu.be/JIWM-XTQODU>

3. 【グループワーク1】30分

「おもいでぐさ」より、だい先生はどのような人生を送ってきた人か考えてみよう

発表

4. 学泉ノートを使って、真心・努力・奉仕・感謝の概念と類似語について説明 10分

5. 【グループワーク2】30分

だい先生のこういった行動が真心・努力・奉仕・感謝とつながるのかあげてみよう

発表

6. 振り返り 5分

・本日のワークについての感想

・個人で、今までの人生を振り返って、真心・努力・奉仕・感謝に関することをそれぞれ書き出してみよう。これから、自分が四大精神を実行していくのに、どうして行ったらよいか書いてみよう。

図2 授業計画

4.4 実施

令和2年11月9日、無限の可能性開発講座Ⅱの授業、4クラスで実施した。図2の授業計画をもとに進めていった。グループワークの様子(写真1、2)を示した。グループワーク1「おもいでぐさ」より

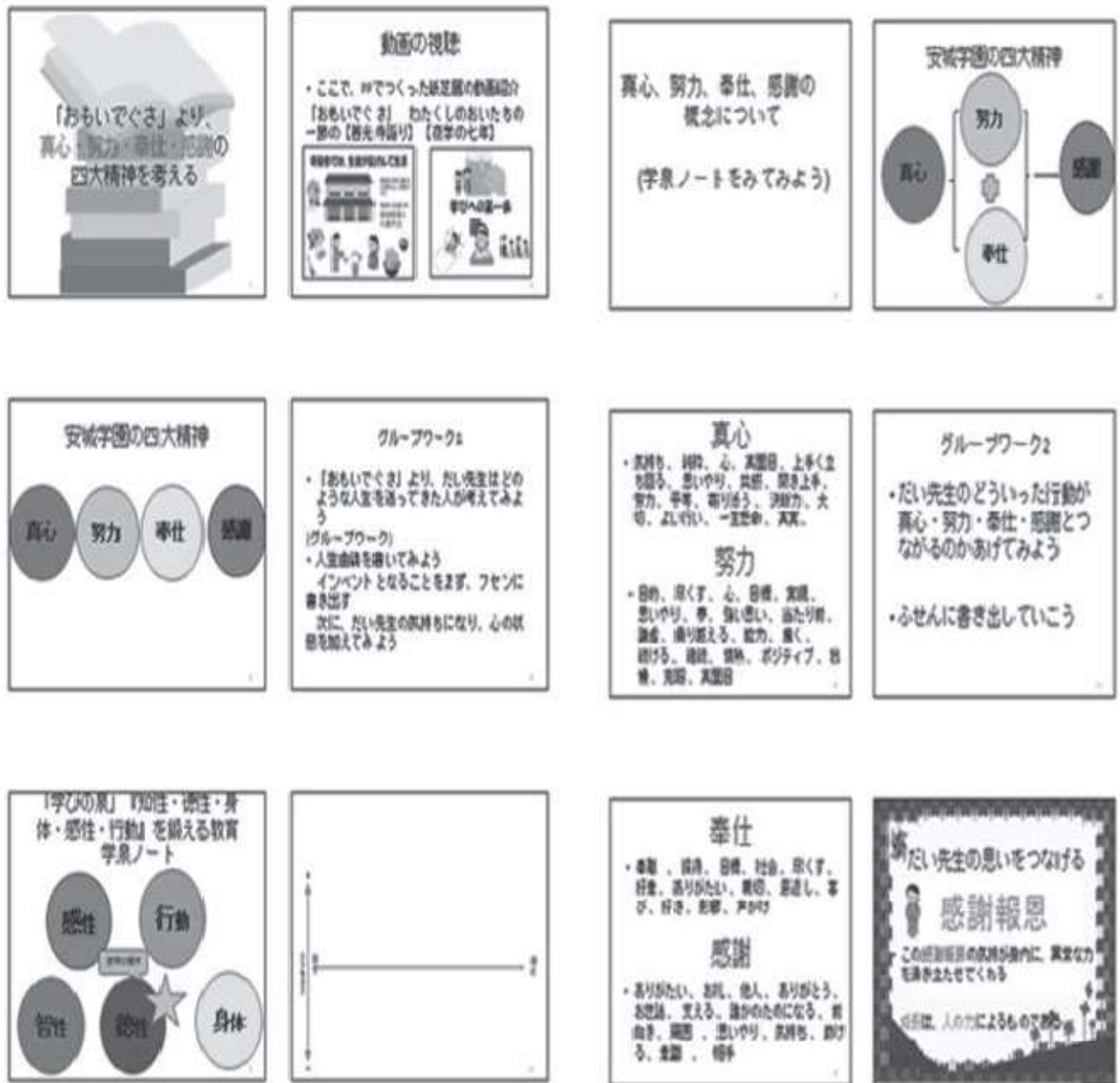


図3 授業資料の抜粋



写真1 グループワークの様子



写真2 グループワークの様子

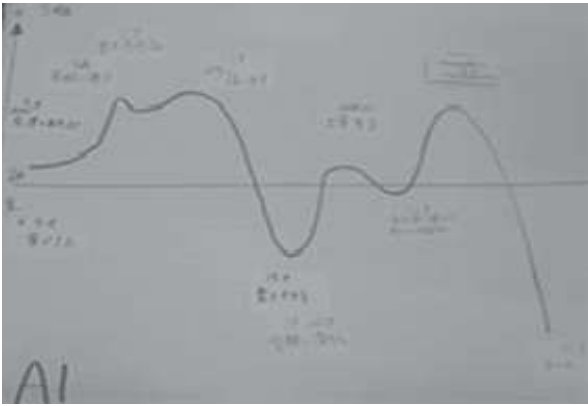


写真3 グループワーク1 人生曲線



写真7 グループワーク2 四大精神

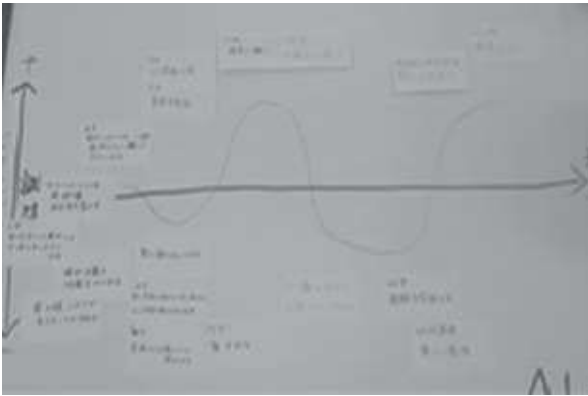


写真4 グループワーク1 人生曲線

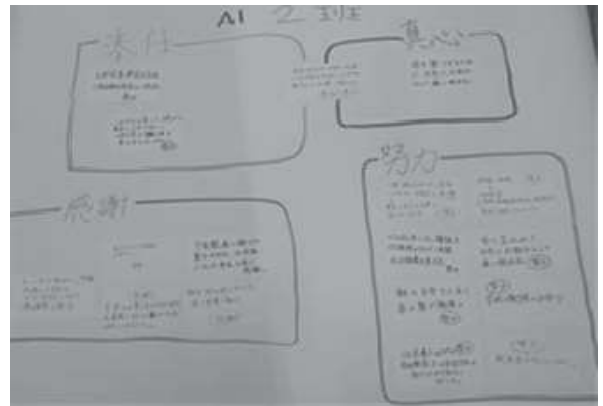


写真8 グループワーク2 四大精神

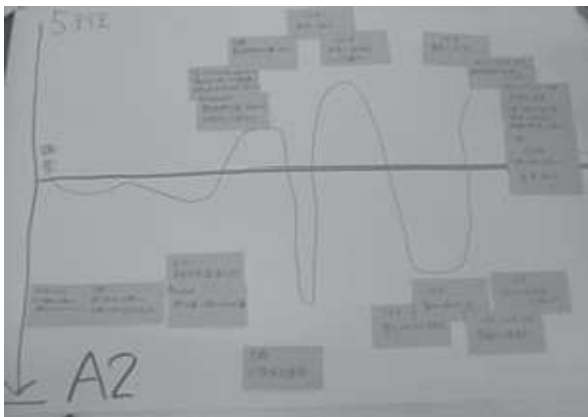


写真4 グループワーク1 人生曲線



写真9 グループワーク2 四大精神

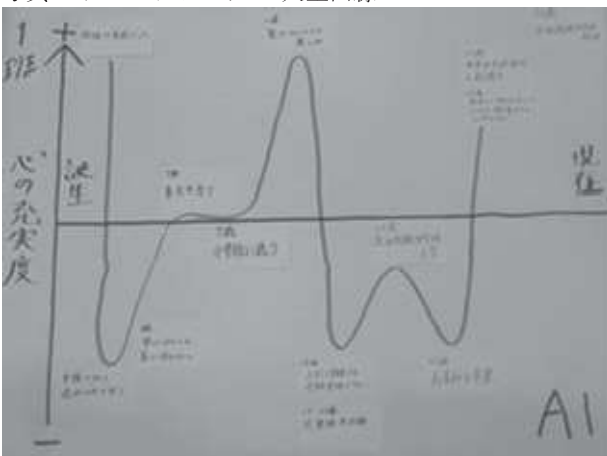


写真5 グループワーク1 人生曲線

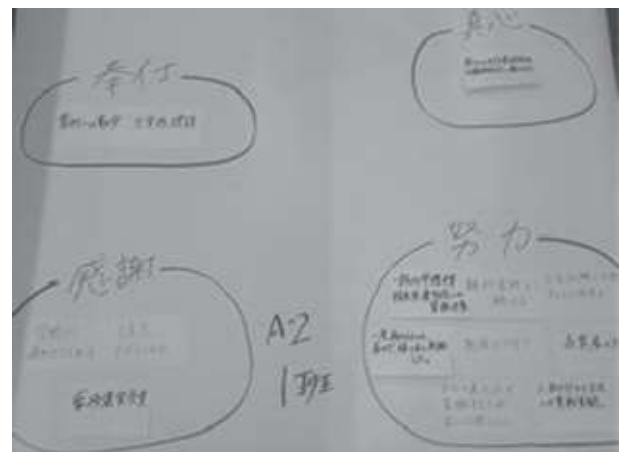


写真10 グループワーク2 四大精神

だい先生はどのような人生を送ってきた人が考えてみよう(写真3~6)、グループワーク2 だい先生のこういった行動が真心・努力・奉仕・感謝とつながるのかあげてみようについてのグループワークによって得られた成果物(写真7~10)に示した。

4.5 評価

開発した教材の評価は多角的に行う必要があるが、今回は振り返りシートを中心に考えていき、一部、グループワークの成果物、教員の意見から行う。

表2 振り返り「本日の授業で重要なポイントを1つ」

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
努力	50	精神	15
感謝	41	先生	14
真心	40	自分	13
奉仕	37	考える	10
思う	22	人	10
大切	18	理解	10
人生	15		

授業後の振り返りシートの間1「今日の授業で重要だと思うこと」、間2「今日の授業を活かすにはどうすればよいでしょうか」を分析ソフト KH Coder を使って、124名分、分析した。間1「今日の授業で重要だと思うこと」は総抽出語数 1715 語、異なり語数 318 語であった。分析に総抽出語数 730 語、異なり語数 216 語を使用した。結果、出現回数の多い語に、「努力」「感謝」「真心」「奉仕」があった。学生が理解しにくいと思われ取り組んだ「真心」「奉仕」の語の使われ方は四大精神の並列で使われていた。共起ネットワークでの分析では6つのサブグラフに分かれ、さらに、原文に戻り考察を進めることで、4つの群になると考えられた。図3に示した四角の点線の囲い1は四大精神である真心・努力・奉仕・感謝が重要ポイントであると記した群であった。実線の囲い2は自身と四大精神の関係の群であった。原文には<自分の生活を振り返って、普段から人のために動くことを意識しないといけないと再認識できた><人に助けってもらったり、感謝されることで、自分も人のために努力や奉仕ができるのだと思いました><人生曲線の上下が大きく変わったり心の充

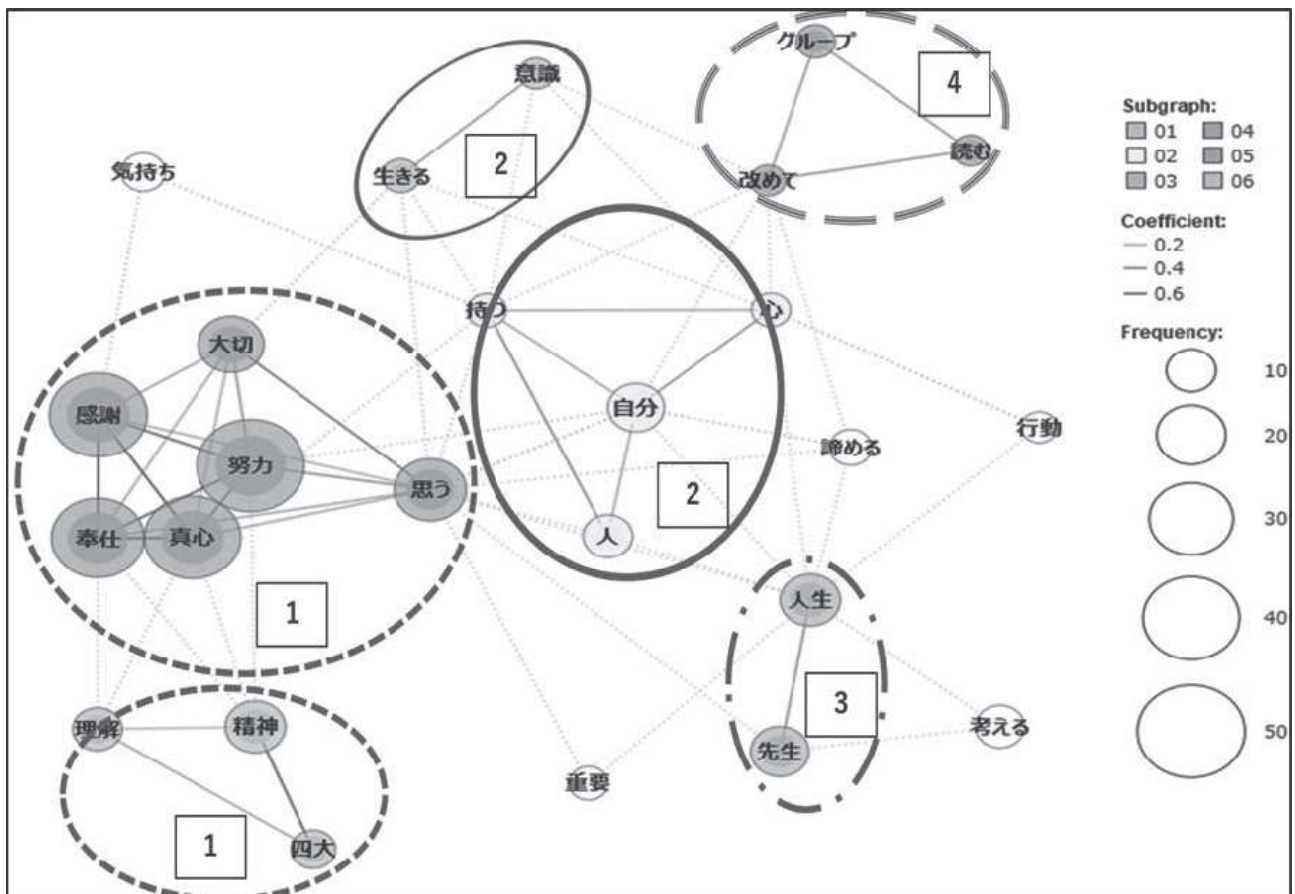


図3 「本日の授業で重要なポイント」共起ネットワーク

実度が変わったりしていくこと、自分のためだけではなく誰かのために努力する必要があることが重要だと思った>などがあつた。

点線の囲い3はだい先生のことが書かれた群であつた。原文には<だい先生がどんな人生を送ったか><だい先生が送ってきた苦難の人生から、彼女がどのような思いで生きてきたのかを知ること><努力は人を裏切らないという言葉の通りだなと思ひ、先生が努力したことでこの学校があることがよくわかりました><先生の文を読んで改めてグループでい

ろんな先生を見つけることができた><先生の生い立ちのなかの四大精神、どんなに苦しい状況でも諦めずに頑張れば叶えることが出来る>などがあつた。点線の囲い4は授業でのグループワークの状況が書かれた群であつた。原文には<おもいでぐさを改めて読んで、初めて読んだ時よりもグループで話し合つて内容がさらに理解出来た><グループワークで努力の付箋が沢山出てきたので努力だと思ひました><グループワークで意見を交換すること><自分の意見をはっきり言うこと><コミュニケーションしっかりとみんなで協力する>であつた。つまり、学生が重要なことと捉えたのは、四大精神である真心・努力・奉仕・感謝と、自分のこととして意識していくこと、だい先生の人生、グループワークでの学びの深まりについてであつた。

問2「今日の授業を活かすにはどうすればよいでしょうか」は総抽出語数 2791 語、異なり語数 398 語であつた。分析に総抽出語数 1238、異なり語数 276 語を使用した。結果、出現回数の多い語に、「努力」「生活」「感謝」「精神」「自分」「真心」「奉仕」があつた。共起ネットでの分析では3つのサブグラフに分かれ、さらに、原文に戻り考察を進めることで、2つの群になると考えられた。図4に示した点線の囲い1は四大精神を意識して、忘れずに、日

表2 振り返り「授業の内容を活かすには」

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
努力	50	考える	28
生活	47	忘れる	26
思う	44	日頃	15
感謝	43	先生	14
精神	39	気持ち	13
自分	38	四大	12
真心	38	常に	12
奉仕	37	人生	12
意識	34	振り返る	9
行動	32		

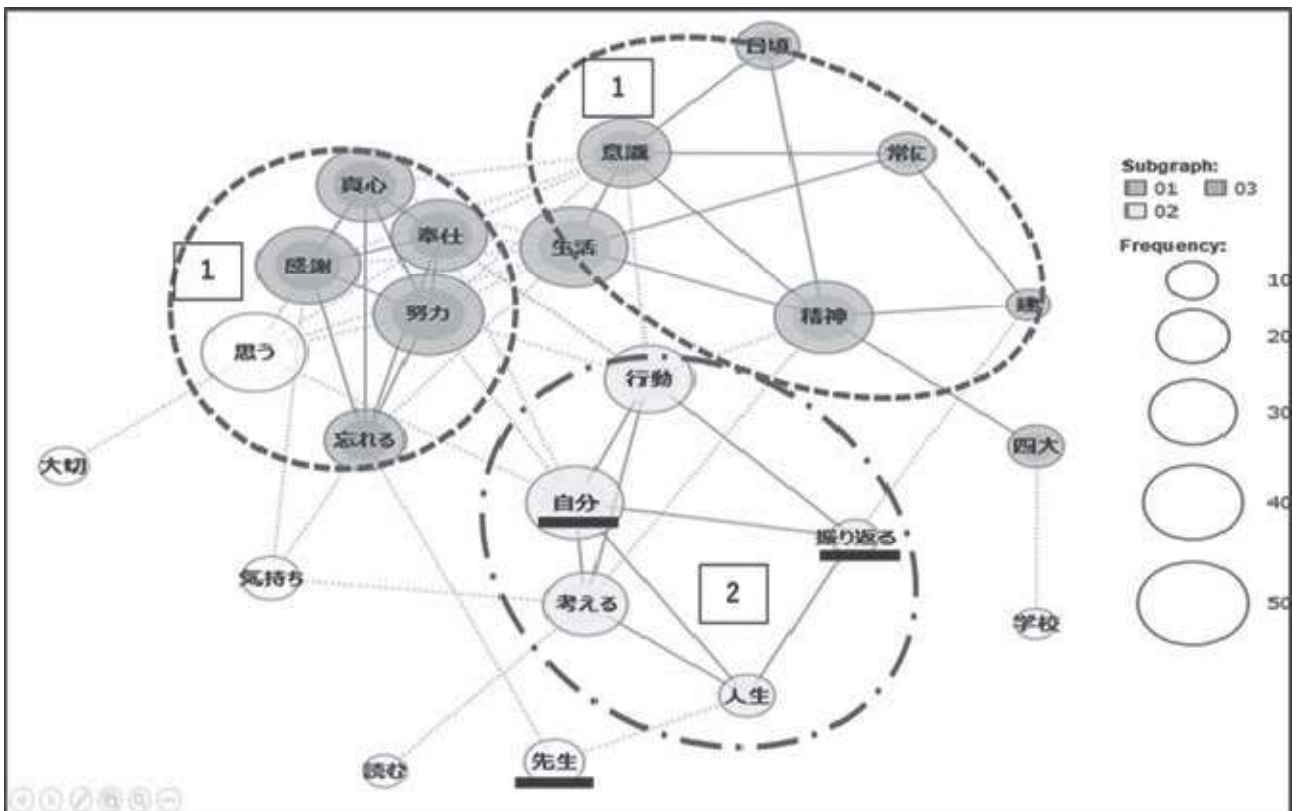


図4 「授業の内容を活かすには」共起ネットワーク

々の生活で意識するといった内容であった。原文ではく自分の人生を考えて生きるくその時どんな気持ちになったのかを毎回よく考えて行動していき、人間関係などにも生かせると思いますく四大精神を自分も意識して過ごす、だい先生の人生をしっかりと振り返って、自分はどうか考えるくなどであった。点線の囲い2は自分の行動を振り返ることに活用できるといった囲いであった。く自分はどうかなどを考えるくだい先生の生い立ちを見て諦めずに頑張る努力や精神を常に考え過ごすくもっと四大精神を考えて学校生活を過ごしていきたいく家に帰って本を読んで、また1人でも考えてみることで大事なと思いますく自分が無理だと思ってもできるところまでやってみる、やってみないと分からないであった。つまり、学生は授業で学んだこと四大精神について、日頃の生活で、自分の行動を振り返ることに活用できると考えていた。

教員からの授業後のコメントとして、「おもいでぐさ」の一節の動画があったことの利点、グループワーク、発表の時間を長くすること、倍の時間をかけ2コマでじっくり考えることをしたほうがよいがあった。

学生の振り返りシートから考察していくと、学生達が「おもいでぐさ」を読んで、思うことを言語化し、発言していくことで、四大精神の理解への深化につながるものが伺えた。残念なことに力説した「感謝報恩」については学生には残らなかったようであった。

5 おわりに

だい先生の半生を描いた「おもいでぐさ」であるが、これからの人生を生きていくあたり、力を与えるもの、考え方を導くものがあると考え、「おもいでぐさ」から四大精神を考える教材の開発を試みた。

学生達が「おもいでぐさ」を読んで、思うことを言語化し、発言していくことで、四大精神の理解に繋がっていると思われた。愛知学泉短期大学で学んだことの一つとして、学生達に心に留められるような働きかけをしていきたと考える。

謝辞

この研究は令和3年度 愛知学泉短期大学学内G P事業研究助成金の交付を受けたものであります。テーマ:建学の精神に関する取り組み、建学の精神を

身に付けるための教材開発のその研究の一部です。

寺部暁理事長先生、安藤正人学長先生に改めてここに感謝いたします。

参考文献

- 1)樋口紘一,社会調査のための計量テキスト分析,ナカニシヤ出版,2014.

(原稿受理年月日:2022年1月11日)